

第 77 回国民体育大会本大会 スポーツボランティア調査レポート

令和 5 年 3 月 22 日

公益財団法人日本スポーツ協会



目次

1. 概要.....	2
1-1. 大会概要	
1-2. 大会ボランティア概要	
2. 取組.....	4
2-1. 募集～決定	
2-2. ボランティア向け事前研修会	
2-3. 大会期間中の活動	
2-4. 振り返り	
3. まとめ.....	16
3-1. 大会準備段階でのポイント	
3-2. 大会期間中のポイント	
3-3. 大会終了後のポイント	

1. 概要

1-1. 大会概要

大会名称：第 77 回国民体育大会

会 場 地：栃木県 14 市 11 町 千葉県下 1 市

開催期日：令和 4 年 10 月 1 日（土）～11 日（火）

＊総合開会式：令和 4 年 10 月 1 日（土）

総合閉会式：令和 4 年 10 月 11 日（火）

会期前実施競技：令和 4 年 9 月 10 日（土）～19 日（月）

実施競技：正式競技(37 競技)、公開競技 (5 競技)、デモンストレーションスポーツ (31 競技)、特別競技 (1 競技)

参加者数：392, 193 人（総合開閉会式・競技会〈正式競技・公開競技・特別競技・デモンストレーションスポーツ〉に参加した選手や監督、関係者、観客者）

※いちご一会とちぎ国体報告書（令和 5 年 3 月/いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会実行委員会）

1-2. 大会ボランティア概要

国民体育大会のボランティアには、各会場での受付や会場美化、式典運営補助等を行う運営ボランティア、大会の広報活動を行う広報ボランティア、聴覚障害等がある人への情報提供やコミュニケーション支援を行う情報支援ボランティアがある（開催県によって名称が異なる）。そのなかで運営ボランティアは、公募で広く募集され¹、総合開・閉会式やその会場の近くに設置されるいちご一会広場、各競技会場等で活動する。

なお、総合開・閉会式といちご一会広場等で活動する運営ボランティアは開催県（栃木県）、各競技会場で活動する運営ボランティアは競技会を開催する会場地市町がそれぞれに募集する。その為、運営ボランティアの応募条件、募集方法及び研修等は、募集主体である開催県、会場地市町によって異なる。

1-2-1. 栃木県の取組（総合開・閉会式・いちご一会広場・総合案内所・駅案内所）

いちご一会とちぎ国体では、運営ボランティアを 1,700 人募集し、ボランティア参加人数は、延べ 1,093 人であった。

応募条件	平成 22 年 4 月 1 日以前に生まれた人で、活動日での参加が可能な人。 応募の時点で 18 歳未満の人は、保護者の同意が必要。
申込方法	郵送・FAX や窓口への持参、HP のフォームからの申込みで対応した。
申込期間	令和 2 年 10 月 1 日（木）～令和 4 年 6 月 17 日（金）
報酬：交通費等	活動、研修等の報酬は無償、交通費は自己負担とし、ユニフォーム及び昼食等は、必要に応じて支給。

¹ 栃木県の広報ボランティアは、開催県内の高等学校・大学・短期大学・専門学校等に在学していることが応募条件である。一方、情報支援ボランティアは、手話での日常会話が可能であったり、筆談・要約筆記の経験が必要であったりと、応募条件により限られた人しか応募できない。

保険	活動、研修等における事故に備え、いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会実行委員会の負担により、「傷害保険」及び「賠償責任保険」に加入。
研修	ボランティアとして活動するための研修会を開催。研修会に参加することを応募条件としていた。令和4年4月から、順次、研修会の開催について案内。 *詳細は5頁を参照。

1-2-2. 会場地市町（競技会）

競技会場となっている25（県外開催競技を実施する千葉県千葉市を除く）の会場地市町のうち、16の会場地市町において、それぞれに募集定員を設定し、運営ボランティアを公募していた。会場地市町ごとの募集人数については、下表のとおり。募集人数は、実施競技や競技数によって異なるが、「上限なし」や「～人程度」としている会場地市町も多く、募集人数よりも多い応募があったとしても柔軟に対応していた。

応募条件	会場地市町によって異なる。応募できる年齢を中学生以上としている市町が多いが、一部の市町では小学生の応募も可能。
申込方法	郵送・FAXや窓口への持参で対応している市町もあれば、募集人数が多い市町ではフォームからの申込みに限定。
申込期間	開催2年前の令和2年4月からの募集開始が一番早く、同年10月頃、もしくは、開催年（令和4年）4月に募集を開始する会場地市町が多い。
報酬・交通費等	活動、研修等の報酬は無償、交通費は自己負担とし、ユニフォーム及び昼食等は、必要に応じて支給。
保険	活動、研修等における事故に備え、各会場地市町実行委員会の負担により、「傷害保険」及び「賠償責任保険」に加入。
研修	必要に応じて説明会や研修会を実施。内容や実施回数は会場地市町によって異なる。

会場地市町ごとの募集人数

会場地市町	正式競技数	募集人数	会場地市町	正式競技数	募集人数
宇都宮市	13 競技	延べ2,000 人程度	矢板市	2 競技	100 人程度
足利市	4 競技	200 人	那須塩原市	5 競技	500 人以上
栃木市	4 競技	非公表	さくら市	1 競技	非公表
佐野市	2 競技	200 人	下野市	2 競技	非公表
鹿沼市	2 競技	上限なし	上三川町	1 競技	100 人程度
小山市	5 競技	200 人程度	壬生町	2 競技	500 人程度
真岡市	1 競技	非公表	野木町	1 競技	100 人
大田原市	3 競技	非公表	那須町	1 競技	50 人程度

2. 取組

2-1. 募集～決定

2-1-1. 栃木県

開催2年前の令和2年1月に県実行委員会の広報・県民運動専門委員会で運営ボランティア募集要項を決定した。募集期間は令和2年10月1日から募集人数に達するまでとしていたが、最終的な募集の締め切りは令和4年6月17日であった。ボランティアの配置については、外部委託事業者が行った。7月25日にボランティアの配置決定通知（活動日と係のみ）を応募者宛に郵送で通知し、9月7日に活動内容の詳細を郵送で案内した。

活動通知書

〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1
令和4(2023)年9月7日

宛先
様

から
いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会実行委員会
事務局長 橋本 謙夫

いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会における運営ボランティアの活動について

いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会の開催準備につきまして、日頃より格別のご支援と御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

また、両大会における運営ボランティアの活動(担当業務等)の詳細が決定しましたので、下記のとおりお知らせいたします。

なお、御不明な点等につきましては、実行委員会事務局(担当:横山)までご連絡ください。

記

1 活動日等	活動日	活動場所	担当係・係	集合時間	集合場所	活動予定時間
①						
②						
③						
④						
⑤						

2 来場方法
活動日、活動場所により異なります。詳細は(別紙1)をご覧ください。

3 持参する物
(1) 活動通知書(本書) (5) 業務マニュアル
(2) IDカード (6) 腕帯(ベスト・帽子)
(3) 顔写真付き本人確認用身分証明書 (7) 飲み物、タオル等
(4) 体調管理チェックシート「様式1」(健康管理アプリを利用できない方)

ボランティア活動決定通知書

【国体リハ・国体】演技係の運営ボランティアのみなさまへ

開催当日(リハール)は、演技係担当について、ご協力よろしくお願いいたします。
みなさまには、式典演技出演者の方に気持ちよく演技していただくためのご対応をお願いいたします。
以下をご一読いただき、当日は気をつけてお越しください。

1 活動の概要
いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会では、多くの出演者の皆様が式典を盛り上げます。
みなさまには、式典演技出演者の方に気持ちよく演技していただくためのご対応をお願いいたします。
しかし、感染症や安全対策上、皆様を守っていただくルールもあります。全ての式典演技出演者に元気に過ごしてもらうために、ルールの遵守をお願いしていくことも私たちの役割です。
当日は、以下の活動をお願いいたしますので、よろしくお願いたします。

・誘導担当：式典演技出演者の整列の補助、入場ゲートへのエスコート補助等を行います。

2 国体リハホール(9/24) 国体(10/1)集合場所
○ 当日の集合場所は、東エリア【白樺アリーナ】内の水泳場です。
○ 水泳場にはアリーナ正面からの入場ができません。→の通りに移動し、スロープを利用してお越しください

3 持参物
・活動通知書
・IDカード
・顔写真付き本人確認用身分証明書
・体調管理チェックシート(記入しておく。)
または 健康管理アプリ(入力しておく。)

・腕帯(ベスト・帽子)
・飲み物(必ず水筒で)
・タオル
・筆記用具(ボールペンなど)

ペットボトルの水はご持参できません。

活動内容の詳細資料

2-1-2. 会場地市町の事例(宇都宮市)

市実行委員会では、開催2年前の令和2年10月に運営ボランティア募集要項を決定した。募集期間は令和3年4月1日から募集人数に達するまでとしていた。令和4年6月にボランティアの配置決定通知を応募者宛に発信し、併せて研修会の案内をボランティアに通知した。最終的な募集の締め切りは8月5日であった。

ボランティア研修会のお知らせ

1 日時
下記日程からご都合のよい日をお選びください(金)までにご返信ください。ボランティア研修会日程希望調査)により、ご回答ください。(1回のみご参加ください。)

日程	時間
1 令和4年8月20日(土)	10時～11時(受付:9時30分～) 14時～15時(受付:13時30分～)
2 令和4年8月21日(日)	10時～11時(受付:9時30分～) 14時～15時(受付:13時30分～)
3 令和4年8月22日(月)	10時～11時(受付:9時30分～) 14時～15時(受付:13時30分～)
4 令和4年9月2日(金)	14時～15時(受付:13時30分～) 18時～19時(受付:17時30分～)

2 場所
二荒山会館第一会議室(宇都宮市馬場通り1丁目1番1号)
※ 裏面に地図が貼られています。

3 内容(約1時間の研修を予定しています。)

① 開会
② ボランティア研修
・いちご一会とちぎ国体の概要説明
・運営ボランティア活動内容の説明
・障がい者の方への対応について
・連絡事項(今後の予定、新型コロナウイルス感染症対策など)

③ 質疑応答
④ 閉会
※ 研修の内容は変更になる場合があります。

4 配布物
ボランティアの従事時に必要となる服装(ベスト、帽子、ID等)を研修当日に配布します。
※ 研修に参加できない方は、8月20日から9月9日まで市実行委員会(研修会場)上野目ビルまで直送依頼に来ていただくようお願いいたします。(土日祝は除く、8時30分から17時まで)

5 持参物
※ 服装決定通知書と筆記用具をお持ちください。

6 その他
・当日、車でお越しになる場合は、二荒山神社駐車場に駐車してください。その際は、駐車券を受付までお持ちください。(最大2時間まで無料)
・研修会場の構内は事前に検温を行ってください。体調不良の場合は研修への参加はできませんので、市実行委員会まで御連絡ください。

研修会案内

2-2. ボランティア向け事前研修会

2-2-1. 栃木県（総合開・閉会式・いちご一会広場）

事前研修会は、先催都道府県の事例を参考に以下のプログラムで構成した。プログラムは栃木県で開催された第77回国民体育大会冬季大会スケート・アイスホッケー競技会と同様であったが、スケート・アイスホッケー競技会で撮影したボランティアの様子を紹介することで、ボランティア活動をイメージしやすいように工夫した。なお研修会は、令和3年から令和4年の間に計33回実施した。

【研修会プログラム】

1	いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会の概要
2	ボランティアの役割
3	マスク越しでも相手に伝わる「おもてなし」
4	障害のある方への接し方
5	環境に配慮した両大会（国民体育大会・全国障害者スポーツ大会）の推進

Point

スポーツイベントでのボランティア活動の様子がわかる動画や写真を見せることで、国民体育大会でのボランティア活動のイメージが沸きやすいと思われる。

2-2-2. 会場地市町（競技会）の事例

(1) 宇都宮市

会期前競技（9月10日～19日）も実施する宇都宮市では、8月20日、21日、9月2日の3日間計6回の研修会を実施。研修会は宇都宮市ボランティア担当者が説明し、約1時間で閉会となった。宇都宮市では、19日間で23会場14競技実施するため、係ごとの詳細な説明ではなく、運営ボランティアに共通する基本的な部分について説明。研修会に参加したボランティアには、大会当日に着用するベスト、帽子及びIDを配布した。なお、研修会に参加できないボランティアには、宇都宮市が指定した期間に市実行委員会事務局に取りに来てもらうことで対応した。参加したボランティアからは、「研修の内容・時間は丁度よかったが、せっかく対面で実施するのであれば、他のボランティアと交流する時間が欲しかった」と



宇都宮市の研修会



研修会での配布物

という意見があった。

【研修会プログラム】

1	いちご一会とちぎ国体の概要
2	運営ボランティアの活動内容
3	宇都宮市のボランティアバンク(宇都宮市まちづくり活動応援事業)の紹介
4	今後の予定等の連絡事項

Point

研修会では、ボランティア同士の交流機会のニーズがあるため、ボランティア同士の自己紹介の時間をプログラムに組込むことで活動へのモチベーションが高まると思われる。

(2) 那須塩原市

本会期(10月1日～11日)のみ実施する那須塩原市では、9月18日に研修会を兼ねた決起大会を実施。ボランティアを募集している会場地市町では、研修会や説明会を実施しているが、開催機運を高め、ボランティアの士気を盛り上げるための決起大会を実施することは数少ない事例である、市実行委員会ボランティア担当者から市実行委員会が作成した



那須塩原市の決起大会

ボランティアの手引きの説明、決起宣言等、約2時間で閉会となった。また宇都宮市同様、大会当日の活動に必要な物品の配布が行われ、参加できない人は、決起大会に参加する知り合いに代理で受取り依頼をするか、那須塩原市が指定した期間に市役所に取りに来てもらうことで対応した。

【決起大会プログラム】

1	運営ボランティアの活動内容
2	講師による講話「ボランティアマナーについて」
3	アトラクション「栃木県黒磯高等学校吹奏楽部演奏会」
4	決起宣言

Point

研修会ではなく、決起大会としてボランティアに集まっていただくことで、市職員とボランティア間で仲間意識が芽生え、ボランティアのモチベーション向上に繋がるとと思われる。

2-3. 大会期間中の活動

2-3-1. 総合開会式

(1) ボランティアの活動状況

大きく案内やおもてなしを担当する「総務企画グループ」と総合開会式の運営に携わる「競技式典グループ」、そして会場警備や来場者の対応をする「会場管理グループ」の3つに分かれており、全17係、555人（配置計画上）が活動。

都道府県応援団として来場した小・中学生などの人数の多い団体への弁当配布では、依頼された弁当の袋詰めや運搬補助で多忙な状況であった。またおもてなし広場係では、来場者の増加に伴いテーブルとイスの追加配置といった役割が生じた。

活動名		活動内容	配置人数		
総務企画グループ	総務班	総務係 実施本部員・ボランティア控室の管理や会場の環境美化	10人		
	報道広報班	報道広報係 報道員の受付、資料の提供、報道員への案内や対応	28人		
	受付班	受付係 大会役員等の来場時の受付・案内・資料配布、ID紛失忘失者に対するID再発行	30人		
	おもてなし班	総合案内所係	開・閉会式、各競技会、交通・観光等の案内・手話や要約筆記、車いす等の貸出や迷子・落とし物の対応	11人	
			開・閉会式会場や競技会場への交通案内、観光、食事、物産品等に関する各種情報の提供	6人	
		いちご二会場係	総合案内チーム	来場案内、案内パンフ等の配布	28人
			入退場ゲート管理チーム	入場者の体温計測、入退場者数・入場者区分の管理	
			会場管理・コロナ対策チーム	広場内の巡回・監視、雑踏整理、出店者指導、大型休憩テント内の消毒	
			会場美化チーム	広場内の清掃・美化、大型休憩テント内等の清掃・拭き上げ、ゴミステーションの管理	
	おもてなしチーム	募金グッズの販売、協賛物品等の配布			
都道府県応援団係	開閉会式を観覧する小中学生の誘導、応援グッズの配布、応援指示・補助、弁当配布・回収	60人			

*配置人数は計画時の配置数を指している（以下、同様）。

活動名		活動内容	配置人数		
競技式典グループ	式典班	入退場係	ゲート内での動線確保等の補助	10人	
		選手団係	受付担当	選手・役員受付時の実施本部員の補助	43人
			控所担当	選出・役員の控えテントの管理	
			誘導・整列担当	選手・役員の整列の補助、入場ゲートへのエスコート	
		出演者係	出演者の整列の補助、入場ゲートへのエスコート補助	11人	
		演技係	式典演技出演者の整列の補助、入場ゲートへのエスコート補助	18人	
会場管理グループ	会場警備班	ID 確認所係	式典入場口での手荷物検査に用いるビニール袋の配布、あらかじめ身に着けている金属類（スマートフォン、携帯電話、財布、時計等）をビニール袋に入れるよう案内	17人	
		入場口係	リストバンド装着の補助、手荷物預かりの補助、ビン・カン・ペットボトルの飲料の移し替え、資料配布、観覧スタンドへの案内	63人	
	来場者整理班	座席案内係	入場券等に表示されている座席番号への座席案内	30人	
		会場案内係	各 ID 確認所や入退場口等の案内	19人	
	医事衛生班	救護係	傷病者の早期発見、体調不良者の誘導・付き添い、静養スペースでの対応	9人	
		弁当係	冷蔵車の誘導、冷蔵車から降ろした弁当・お茶の搬入、弁当引換、弁当ガラ回収、片付け・撤収	162人	

(2) ボランティア運営の特徴・良かった点や課題など

- ① 地元企業からのボランティア参加者が多数みられた。
- ② 東京 2020 大会でボランティアに配布されたパンツ、ポーチなどを着用しているボランティアが複数人いた。
- ③ 会場全体が広く、各所のボランティアの集合場所がわかりにくい、との声も聞かれた。
- ④ 親子ボランティアや学生ボランティアが多く活動していた。
- ⑤ ボランティア控室（兼昼食会場）は十分なスペースがとられていた（活動エリアが広い
ため、控室を利用しないボランティアも多数いた）。



選手団受付での旗竿と旗手ベルト貸出



出演者係による出演者の誘導

2-3-2. 宇都宮市会期前実施競技（水泳・体操・弓道）

(1) ボランティアの活動状況

活動名	活動内容	配置人数
おもてなし係	選手・監督にドリンク、宇都宮の銘菓の提供、ゴミの分別	各競技 2 人 (スポーツ推進委員)
弁当係	弁当引換、弁当ガラ回収、片付け	各競技 4 人
環境美化係	競技会場内の清掃・消毒、会場装飾（のぼり旗・花プランター）の管理	各競技 6～8 人

(2) ボランティア運営の特徴・良かった点や課題など

- ① 年齢が近い世代でグループ分けをしていたのでボランティア同士のコミュニケーションが活発に行われていた。
- ② 体操・水泳のおもてなしブースは同一会場だったが競技が異なる関係者同士の接触を避けるため、窓口を二手に分けていた。



環境美化係によるごみ拾い

- ③ 弁当は申請があるごとに保冷車から取り出す流れだが、受付から引き渡しまでの詳細な手順については、スペースの広さや混雑具合などの特性に応じて、手順や人数を変更するなど会場ごとに柔軟に対応していた。

2-3-3. 宇都宮市（バレーボール・陸上競技）

(1) ボランティアの活動状況

弁当係は選手・関係者向けに弁当の受付をし、袋詰めして配布、環境美化係は会場内（特に観客席）を定期的アルコール消毒していた。

活動名	活動内容	配置人数	
おもてなし係	選手・監督にドリンク、宇都宮の銘菓の提供、ゴミの分別	バレーボール	2人 (スポーツ推進委員)
		陸上競技	6~8人
弁当係	弁当引換、弁当ガラ回収、弁当の配布、回収、片付け	バレーボール	4人
		陸上競技	5~10人
環境美化係	競技会場内の清掃・消毒、会場装飾(のぼり旗・花プランター)の管理	バレーボール	6人
		陸上競技	12人

(2) ボランティア運営の特徴・良かった点や課題など

- ① バレーボール会場の弁当係は、当初計画していた人数では足りなかった(見込みよりも作業量が多かった)ため、状況に応じて係の割り振りが変更されていた。
- ② バレーボール会場の環境美化係は、試合を見ながら作業ができるため、活動を楽しんでいるようであった。

2-3-4. 那須塩原市(トライアスロン)

(1) ボランティアの活動状況

トライアスロンに限り、応援観戦係は地元中学生の給水、フィニッシュ地点でのゴールテープ張り、タオル掛け等の活動のサポートをしていた。

活動名	活動内容	配置人数
受付案内係	大会関係者の受付・IDカードと資料の配布、観覧席・売店・トイレの場所等の会場案内	3人
休憩所・売店係	来場者へ無料ドリンクの提供、ゴミの回収・分別、休憩所の清掃・消毒	10人
弁当係	弁当引換、弁当ガラ回収	6人
環境美化係	会場内ゴミ箱のゴミ回収、分別、会場内トイレの巡回・トイレトペーパーの確認	8人
応援観戦係	児童生徒のシャトルバスの乗降案内、観戦・活動場所への誘導	4人
会場係	一般観覧者が滞留しないよう案内・整理・誘導	10人
	会場内の仮設物(テント・看板等)・装飾物(のぼり旗・横断幕等)の安全点検	
	関係者以外立入禁止区域でIDカードのチェック	
駐車場係	駐車場内の車の誘導	8~9人
輸送係	一般観覧者への乗降案内、競技会場への誘導、乗車列の整	6人

	理・誘導	
消防係	喫煙所・売店の火気の確認・安全点検	2人
衛生係	一般観覧者のマスク着用の確認、検温・消毒の案内	5人

(2) ボランティア運営の特徴・良かった点や課題など

- ① ボランティアの呼称 (ID 上の表記) は「競技会補助員」。
- ② 那須塩原市では、今大会のボランティアに「那須塩原市ボランティア登録証」のカードを付与しており、多くのボランティアが、ID カードのケースの中に登録証を入れていた。
- ③ 市からの依頼で、市体育協会加盟団体関係者及びスポーツ推進委員がボランティアとして参加。
- ④ 駐車場係のボランティアの活動場所が競技活動現場と離れており、ボランティアへの作業依頼やモチベーションマネジメントが難しい配置であった。
- ⑤ トライアスロンにおける応援観戦係は、地元中学生ボランティア (1つの中学校における中学2年生の2/3程度) の活動をサポートしていた。



衛生係による検温

2-3-5. 上三川町 (フェンシング)

(1) ボランティアの活動状況

受付案内係のうち一般受付の担当者は、検温、健康チェックアプリの確認、ID カード配布、リストバンド・資料・靴を入れるビニール袋の配布等の役割を担っていた。

活動名		活動内容	配置人数
受付案内係	選手受付	資料袋・靴袋の配布、ID カードのシール貼り、弁当引換、弁当ガラ回収	2~8人
	一般受付	一般観客や学校観戦受付の資料やリストバンドの配布、会場案内の補助	1~6人
おもてなし係	ドリンクコーナー・カフェ	ドリンクコーナー、カフェの運営補助	5~7人
	観客席誘導・美化	座席への誘導、座席の消毒・ゴミ拾い	3~8人

(2) ボランティア運営の特徴・良かった点や課題など

- ① 「親子ボランティア」という枠組みでボランティアを募集。
- ② シフト（AM・PM・終日）を組んで運営していた。

【受付案内係のシフト】

AM	7:30～12:00
PM	11:30～16:00
終日	7:30～16:00

【おもてなし係のシフト】

AM	8:00～12:30
PM	12:00～16:30
終日	8:00～16:30



受付案内係として活動する親子ボランティア

2-3-6. 壬生町（スポーツクライミング）

(1) ボランティアの活動状況

クライミングの体験ブースが設置されており、スポーツ推進委員が受付の役割を担っていた。

活動名	活動内容	配置人数
受付案内係	来場者へ大会プログラムやグッズの配布、会場案内・町の観光案内	5～7人
おもてなし・売店係	無料ふるまい・無料ドリンクの配布の補助、おもてなしコーナー内の清掃、ごみ処理、テーブル・イス等の消毒	1～6人
弁当係	大会関係者への弁当引換、弁当ガラ回収	1～3人
環境美化係	会場内の清掃、ごみ箱の管理（回収）、喫煙所の管理・清掃、トイレの点検管理（トイレトーパー・ハンドソープ等の補充）、装飾類（のぼり旗・看板類）の点検管理	2人
競技会場係	設置物の確認（破損等）、会場内の清掃・イス等の消毒	2～4人

(2) ボランティア運営の特徴・良かった点や課題など

- ① ボランティアや競技関係者の数に対し、町の職員と思われるスタッフが多く配置されているように見受けられた（現地調査のタイミングで、スポーツ庁長官の来訪があったことも影響していると考えられる）。
- ② 民生委員とスポーツ推進委員が多く現場で活動していた。



環境美化係によるごみ箱の袋交換

2-3-7. 那須町（自転車・ロードレース）

(1) ボランティアの活動状況

競技を間近で観ることができる立哨（りっしょう：一定の場所に立って、警戒・監視の任に当たること）員の役割をボランティアに任せていた。立哨員の中には、第72回国民体育大会（愛媛県）で、自転車・ロードレースのボランティアで立哨員の役割を担った人が、本大会でも活動していた。

活動名	活動内容	配置人数
総合案内係	総合案内所・検温所の管理運営、入場整理・入場者数の記録	4人
弁当係	弁当引換、弁当ガラ回収	4人
環境美化係	競技会場・関係施設内の清掃・美化（消毒作業含む）、ゴミ箱・喫煙所の設置管理、トイレの維持管理	2人
りっしょう 立哨員係	コース上の砂・小石等競技の安全性を阻害する障害物の除去、一般車両、歩行者の誘導・交通規制への協力の案内、安全器具（カラーコーン等）の設置	10人
学校観戦係	バス乗降所の案内・調整、観戦席の設置、観戦場所の清掃・消毒	6人
広報係	業務中の各系の業務風景や競技の様子、一般観覧者の様子等の撮影、インタビューコーナーの設置	3人
交通規制誘導係	交通規制に伴う車両誘導や歩行者の安全確保	1人
駐車場係	駐車場への案内・駐車場内の誘導	7人

(2) ボランティア運営の特徴・良かった点や課題など

- ① 立哨員係のボランティアの多くは、ジャパンカップサイクルロードレースの立哨員としても活動しており、立哨員として活動するための資格を保有していた。
- ② 立哨員の資格を保有していないボランティアも、自身やその家族が自転車競技に取り組んでおり、那須町が「自転車の町」であることがうかがえた。
- ③ 弁当係は那須町内の中学校の生徒と一緒に活動していた。



立哨員係による観客の整理誘導

2-3-8. 矢板市（サッカー）

(1) ボランティアの活動状況

応援観戦係は、30分に1台程度の頻度で市内の小学生を乗せたバスが到着する度に、30～40人の小学生をスタンドまで誘導し、スティックバルーンの膨らまし方や応援方法を指

導していた。また環境美化係は、広大で高低差が大きい敷地内を定期的に歩いてゴミを拾っていた。

活動名	活動内容	配置人数
受付案内係	大会関係者の受付・資料配布、競技・観光等の案内、拾得物・遺失物・迷子の受付、来場者への検温の実施	3～6人
休憩所・売店係	休憩所・無料ドリンクコーナー、おもてなしコーナーの運営補助	2～3人
食品衛生係	弁当引換、弁当ガラ回収	4～5人
環境美化係	競技会場内外の環境美化、会場内の消毒	4～6人
応援観戦係	応援観戦児童・生徒の会場内誘導・管理、応援観戦の補助（スティックバルーンの膨らまし方、応援方法）、ゴミの回収	3～6人
会場管理・警備係	一般観覧者等の施設案内・整備・誘導、場内の消毒	2～6人
駐車場係	車両誘導・歩行者の安全確保、駐車場の巡回	4～7人
シャトルバス係	シャトルバスの乗降案内、搭乗者の乗車前検温・消毒の実施	2～3人

(2) ボランティア運営の特徴・良かった点や課題など

- ① 競技場内での役割は試合中に活動がなく、ゆっくり試合を観戦できた。一方、駐車場係と環境美化係は試合の進行とは関係なく、活動を続けていた。
- ② 普段から市スポ協に協力しているサッカーに限らない市競技団体関係者が1/3くらいの割合で活動。
- ③ 同一敷地内の少し離れた場所で2面展開だったため、会場周りのボランティアは同じ役割を2グループ編成。
- ④ 市外の近隣市町から参加しているボランティアも存在。



学校観戦係による児童の誘導

2-3-9. 宇都宮駅内総合案内

(1) ボランティアの活動状況

JR宇都宮駅の改札付近に設置された案内所コーナーで1日あたり4～5人が活動。栃木県と宇都宮市が合同で運営しており、①実施本部員（県職員）、②市職員、③県が募集したボランティア、④宇都宮市が手配した宇都宮シティガイド協会のボランティアが



総合案内での問合せ対応

配置され、会場へのアクセス方法を中心に来県者への対応を行った。

宇都宮市ボランティアの活動時間は、9月8日～19日、9月29日～11日の8時45分～16時00分(10月11日の総合閉会式は6時45分～11時00分)。30分から1時間おきに交代で休憩を取っていた。

2-3-10. 総合閉会式

(1) ボランティアの活動状況

総合閉会式に比べ、演技係、ID確認所係はなかったが、おおよそ同じ配置であった。

(2) ボランティア運営の特徴・良かった点や課題など

- ① 式典関係では、(インタビューした範囲で) 開会式を経験したボランティアが配置されておらず、閉会式が初めての活動となるボランティアが多数みられた。
- ② 式典関係の実施本部員(県職員)は、開会式を経験を踏まえてスムーズに説明・指示出しをしていた。
- ③ いちご一会場場のボランティアは、開会式以降連日運営していたこともあり、運営体制の習熟が進んだことから混乱なく運営されていた。

2-4. 振り返り

2-4-1. ボランティア運営統括者(栃木県担当者)による振り返り

(1) ボランティア募集での会場地市町との連携

県のボランティア募集では、目標人数を確保するため会場地市町が募集するボランティアに応募した人に、当該会場地市町から県が募集するボランティアについて紹介してもらった。また、県が募集するボランティアに応募した人にも、会場地市町が募集するボランティアについて紹介するなど、相互で連携をはかった。

(2) 実施本部員(県職員)へのボランティアの接し方に関するレクチャー

各係長が実施本部員向けの詳細なマニュアルを作成し、それに基づいて実施本部員からボランティアへ指示を出して一緒に活動することとした。実施本部員とボランティアのコミュニケーションが重要となることから、実施本部員向けに、ボランティアに接する際の心得についての資料を作成し、研修会で配布した。

(3) とりまとめ役の配置

演技係では、実施本部員の中からボランティアのとりまとめ役を配置した。それによりとりまとめ役がボランティアの全体の配置をみて手持ち無沙汰なボランティアがいないように配置を調整し、スムーズに出演者のサポートができた。

2-4-2. ボランティア運営担当者(宇都宮市担当者)による振り返り

(1) ボランティア向けマニュアル

ボランティア向けのマニュアルは、会場や係に関わらず共通的な内容のみマニュアル化した。ボランティアは市の職員(競技会係員)と一緒に活動するため、「競技会係員業務必携」を準備し、活動当日に職員から、ボランティアに対して活動内容を説明してもらうことで対

応じた。ボランティアマニュアルについては、県と会場地市町で統一しても良いと思う部分があるが、県や会場地市町、全国障害者スポーツ大会ごとに活動内容や活動時間等が異なるため、一概に統一することが良いとは言えない。

(2) ボランティアの意思確認の実施

ボランティアの配置決定までに、応募者に対してボランティア活動の意思確認を2回実施した。大会前年（2021年）の10月頃に1回目の意思確認を実施し、4月に転勤や異動、進学等があることを踏まえ、大会当年（2022年）の5月末に2回目の意思確認を実施した。応募者の環境が変わることでボランティア活動の意思も変わることを想定し、大会開催年の5月末に意思確認をしたことで大会期間中の欠席者が少なかったと考えている。

(3) ボランティアへのEメールによる連絡

1,000人以上のボランティアを対象とするため、一斉に連絡でき、記録として残せるEメールを用いて連絡することとした。そのためボランティア応募時にEメールアドレスの登録を必須の応募条件とした。ボランティアとの連絡が記録として残ることで業務の効率化に繋がったが、他方でEメールアドレスの登録ができない人には応募を断念してもらわざるをえなかった。

2-4-3. ボランティアによる振り返り

(1) ボランティア参加経緯

ボランティアからは「50年に一度しか回ってこない国体が、せつかく地元で開催されるので参加した」と、国民体育大会が地元で開催されることを理由に参加している人が多かった。また、普段は栃木県外に住んでいるが、ボランティア活動の為に栃木県内の実家に帰省している人もいた。中にはボランティア活動とその地域での旅行目的に、次年度以降の国民体育大会（国民スポーツ大会）でもボランティアとして参加する予定の人もいた。

(2) ボランティアの役割とそのサポート

ボランティアは実施本部員（県職員）と一緒に業務を行うため、実施本部員（県職員）による手厚いサポートを受けながらボランティアの役割に従事することとなる。そのため、ボランティア経験が少ない人、初めてボランティアをする人にとっては、不安なくボランティア活動が実施できていた。実際にボランティアからは「不安無く当日を迎えることができた」「職員の方（実施本部員）が丁寧に教えてくれた」といった声が聞かれた。これまでボランティアの経験がなく、せつかく地元で開催される国民体育大会なので何らかの形で関わろうと思いボランティアに応募された人にとっては、ボランティア活動の入り口として適した活動であったと考えられる。

3. まとめ

3-1. 大会準備段階（配置計画、募集、研修等）でのポイント

3-1-1. ボランティア募集時の開催県と会場地市町、既存ボランティアバンクとの連携

県や会場地市町が、それぞれにボランティアを募集しても定員を満たせない可能性がある。そのため、県や会場地市町が集めたボランティアに、お互いの募集情報を紹介する仕組みを整え

ることも一例である。

また、まちづくりや福祉関係といったスポーツとは関わりの薄いボランティアバンクに募集をかけることも有効な策となり得る。

3-1-2. 配置計画前の意思確認

国民体育大会は、開催 2 年以上前から運営ボランティアの募集が始まる傾向にある。応募時に学生だった人は就職、社会人は転勤等、大会開催時にはライフスタイルが大きく変化している人もいる。そのため、開催年の 4～5 月頃に再度ボランティア活動の意思を確認することで、活動ができなくなった人を把握し、欠席者数を抑えることができると思われる。

3-1-3. ボランティアを信頼し、より多くの役割に配置

活動意欲のあるボランティアに対して、活動の目的や内容を適切に伝えることで、想定以上の役割を果たすことが期待できる。これまでは自治体職員や学校部活動に所属する生徒等に任せていた活動を含め、ボランティアに任せる役割の幅を広げることで、地域のスポーツイベントをささえるボランティアの発掘・育成に繋げることができる。

3-1-4. ボランティアのやりがいを考慮した配置

ボランティアの中には、人とのふれあいにやりがいを感じる人が多い。自治体職員のサポート役（補助員）としてボランティアを配置することで、自治体（大会主催者）の負担を軽減しつつ、ボランティアに参加満足度の高い活動機会を提供することができる。

3-1-5. 大会前にボランティア同士がコミュニケーションをとる機会の確保

ボランティア経験の少ない人は、どのような人と一緒に活動するのか不安に思うことがある。多くの自治体ではボランティア向け事前研修会を開催するが、その際に自己紹介やアイスブレイクの時間を設ける等、活動日を迎えるまでにボランティア同士でコミュニケーションをとる機会を設けることでボランティアの不安解消に繋がる。

3-2. 大会期間中のポイント

3-2-1. 実施本部長による手厚いサポート

国民体育大会にボランティアとして参加する人は、ボランティア経験が浅い人が多く、中には初めてボランティアをする人もいる。自治体職員と一緒に安心して活動できることが国民体育大会ならではの特長である。そのため、自治体職員に対しボランティアへの接し方等に関する研修の実施が望まれる。

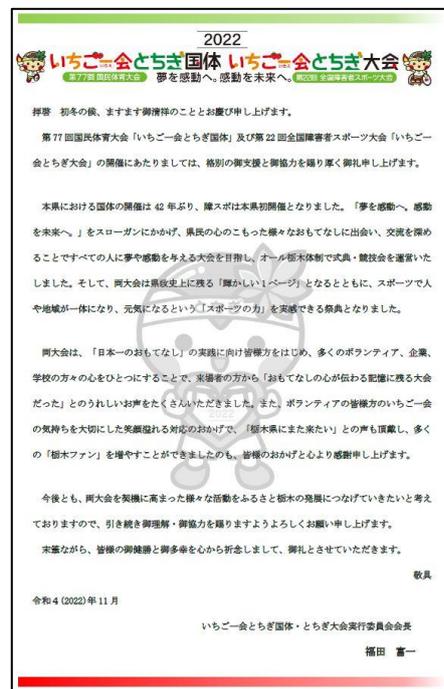
3-2-2. ボランティア・リーダーの配置

ボランティアの配置を計画する際に、活動現場においてボランティアを束ねるボランティア・リーダーを配置することで、自治体職員の運営負担軽減に繋がる。しかしながら申込情報だけでは、リーダーを担える能力や経験を有する人物かどうかを判断することは難しい。そのため、活動初日の様子を見てリーダーを任せられる人を見つけるのも一つの手法である。

3-3. 大会終了後のポイント

3-3-1. 大会主催者からボランティアへ感謝の気持ちを伝える

大会期間中はもちろん、大会終了後にもボランティアへ感謝の気持ちを伝えることで、活動の満足度がより向上し、ボランティア活動の継続に繋がる可能性が高まる。本大会では、大会終了後にお礼状と記念品をボランティアに郵送した（栃木県の事例）。しかしながら、（当日欠席を把握しきれず）ボランティア応募者全員に郵送した場合、活動日に参加できなかったボランティアにもお礼状や感謝状を送付してしまうことが起こり得るため注意が必要である。



お礼状

3-3-2. ボランティアからのフィードバック機会

ボランティア運営の検証やノウハウの蓄積、のために、ボランティアを対象にアンケート調査を実施することが望ましい。大会期間中、ボランティア担当者は活動中や活動終了後の振り返りミーティングで様々な話を聞くことで課題を把握できる。しかし、定量的に評価したり、様々な経験を有するボランティアによる振り返りに触れることで新たな課題の発見が期待できる。

3-3-3. ボランティアの定着に向けた取組

国民体育大会をはじめとしたスポーツ大会・イベントの開催を契機に集まったスポーツボランティアの開催県や会場地市町への定着化の方向性として、以下のようなパターンがあると考えられる。その地域の実状に沿った形での定着化を目指すことがポイントである。

(1) 既存ボランティアバンクの活用

県や市町には、既にスポーツボランティアバンクだけでなく社会福祉協議会やまちづくりに関する人材バンクが設立されていることが多い。例えば民間では、JリーグやBリーグといったプロスポーツチームのボランティア組織等もある。スポーツ大会・イベントの際に集まったスポーツボランティアの既存ボランティアバンク等への登録を促進し、活用を促すことで、ボランティアの定着に繋がる。併せて、活動が停滞しているボランティアバンクの活性化の契機になると考えられる。

(2) スポーツボランティア情報の保有と活用

スポーツ大会・イベントの際に集まったスポーツボランティアの連絡先情報（Eメールアドレス等）を県や市町などの大会主催者が保有し、スポーツボランティアの活動機会がある度に、協力依頼を発信することで、ボランティア活動の機会を継続的に提供することができ、ボランティアの定着に繋がる。

(3) 新たなスポーツボランティア組織の設立

スポーツ大会・イベントの際に集まったスポーツボランティアが発起人（中心人物）となり、スポーツボランティア組織を立ち上げることで定着化を図る。組織立ち上げの際は自治体に伴走してもらうこともある。組織の形態も任意団体の他、一般社団法人や特定非営利活動（NPO）法人等の法人格を取得するなど様々だが、組織があることでボランティアの登録が可能となり、組織的にボランティア活動に取り組むことができ、ボランティアの定着に繋がる。

以上のような取組によってボランティアの定着を図ることが可能であると思われるが、いずれの取組においてもボランティアの募集前や活動中からの下準備が必要である。ボランティアの連絡先情報を大会終了後も利用するためには、個人情報の取得時にその旨了承を得る必要がある。また大会終了後にボランティア組織を立ち上げるのであれば、事前研修会や活動中に一人でも多くの発起人（中心人物）になり得る人の目星をつける必要がある。このような大会終了後を見据えた準備が求められる。

公益財団法人日本スポーツ協会 総合企画委員会 スポーツボランティア部会

部会長 工藤 保子（大東文化大学）

部会員 齋藤 道子（NPO 法人うつくしまスポーツルーターズ）

澁谷 茂樹（公益財団法人笹川スポーツ財団）

但野 秀信（NPO 法人日本スポーツボランティアネットワーク）

田中 正男（NPO 法人湘南マリンオーガニゼーション）

発行

公益財団法人日本スポーツ協会 イノベーション推進室